

# 箕面市立 多文化交流センターニュース

## Minoh Multicultural Center News

発行：箕面市立多文化交流センター 指定管理者：(公財) 箕面市国際交流協会

No.18

発行 2022 年 3 月



### 新しい歩みを進めるために ～コロナ禍で見たこと～

#### 2021年度のセンター-事業報告

- P1-2 2021年度の多文化交流センターをふりかえる
- P3 学生・若者と地域がつながる居場所「ひとこま」
- P4 JET-ALTって、どんな人たち？ 市立小中学校の外国語指導助手を知る！
- P5-6 地域日本語教室「ひがしにほんご」におじゃましました







## 2021年度の多文化交流センターをふりかえる

2021年度は一年を通して断続的にまん延防止等重点措置と緊急事態宣言が発令され、対面での事業やイベントの実施が難しい状況が続きました。

日本語教室や子どもの学習サポート事業などは、3月に入ってもオンラインでの実施が続きました。そんななかでも、できることをやろう、と新しい取り組みも始まりました。一年間を振り返って、特徴的な動きを紹介します。



### コロナ禍での comm cafe の挑戦



新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、comm cafe の運営も厳しい状況が続きました。緊急事態宣言が発令されていた5月は完全閉店になり、まん延防止等重点措置が発令された間は、テイクアウト営業に切り替えました。

売上は落ちましたが、「comm cafe の10年の歩みをMOOK本にまとめたい」「多文化子ども食堂を開催したい」など、シェフやスタッフのやりたい取り組みを実現するため、2月8日から3月30日までは、新たな展開につながるためのクラウドファンディングを実施しました。多くの方たちに支えられる中、従来のカフェ営業にとどまらない、新たな「出番」と「役割」をつくるべく奮闘中です。



### 小野原図書館

図書館には色々な本がありますが、どれくらい読まれているかは、本によって大きな差があります。よく借りられる本がある一方、なかなか手にとってもらえないものもあります。そんな知られていない本にスポットライトを当てるのが展示です。



今年度は箕面本屋大使になられた今村翔吾さんが受賞した直木賞をはじめとした文学賞のコーナーを作りました。また、ウクライナの特集や募金も実施しました。

「面白そうだな」と感じたら、借りてかえてください。 (小野原図書館館長：小松)

### 大阪大学新箕面キャンパスとの協働が始動!

2021年4月には箕面船場地区に大阪大学新箕面キャンパスが開学しました。そのお披露目を兼ねて10月に開催され

た「箕面国際フェスティバル」では comm cafe の屋台出店と協会による屋内企画を実施。学生たちと共同で「みんなの一日知ってみたい! ~7人の物語~」という企画を行いました。地域で暮らす外国人市民をスピーカーに招いて、それぞれの日を語ってもらい、来場者には自分の一日を一枚の紙に描いてもらい飾りだすという企画。学生、外国人市民、地域住民という普段出会わない人たちがお互いの生活に触れあう、出会いの機会となりました。また12月には協会と大阪大学グローバルキャンパス運営会議との間で「連携協定」が締結されました。新キャンパス内を大学と市民の協働スペースとして活用する取り組みが始まっています。



### 「あいあいカフェ」がはじまりました

豊川南小地区福祉会では、地域の人たちが気軽に立ち寄れる縁側的なスペースをつくろうと、多文化交流センター地下で箕面市社会福祉協議会が毎週水曜日に開所している「ささえあいステーション」(総合相談窓口)にあわせ、「あいあいカフェ」を始めました。きっかけは、2021年春から実施されたワクチン接種。協会と豊川南小地区福祉会、ささえあいステーションで協力し、地域の外国人市民や高齢者のために予約をお手伝いするサポート窓口を開設。しかし、福祉会やささえあいステーションには相談がありませんでした。そこで「困ったときだけではなく、普段から気軽に立ち寄れる関係が必要なのでは」というメンバーの声をもとに始まったのが、この「あいあいカフェ」です。コーヒーを飲みながら、なんとなくおしゃべりするというこのカフェに、少しずつ常連が増え始めています。



(社会福祉協議会：山岡)

## 多文化交流センターの1年

- 2021年
    - 4月5日~4月24日 まん延防止等重点措置
    - 4月25日~6月20日 緊急事態宣言
    - 6月21日~8月1日 まん延防止等重点措置
    - 8月2日~9月30日 緊急事態宣言
  - 2022年
    - 1月27日~3月21日 まん延防止等重点措置
- 多文化交流センターは開館を継続。

### 「多民族フェスティバル特別編」をオンラインで配信

2020年度は中止となった多民族フェスティバル。さて2021年はどうしようか、と実行委員会に参加する団体が集まってオンラインで相談しました。「このフェスは公園で開催してこそもの。できないなら中止すべき」「オンラインなど別の形でやってみるのもありなのでは」など、いろいろな意見が出されましたが、フェスティバルは中止。その上で、事務局と希望する団体とでフェスティバルの裏側を紹介する動画を製作して配信しよう、ということになりました。そして、多くの人たちの協力により76分の動画が完成。11月13日からYoutubeで公開しています。これまでフェスティバルに関わってきた人々へのインタビュー、実行委員会参加団体の紹介など、普段のフェスティバルだけでは伝えきれない内容が詰まっています。ぜひ下記のQRコードをご覧ください。



### 人と人をつなぎたい!

#### “Ngon Ngon Vietnam”によるお弁当配布

コロナ禍が長期化するなかで、人と会ったり、つながる機会がとてまもなく少なくなりました。地域で暮らす外国人市民、そのなかでも技能実習生をはじめとして仕事のために単身で来日している人たちは、なかなか地域とつながる機会がありません。困ったことがあっても相談できる人がいない



かもしれない…。そんな人々を母国の料理でつないでいきたいと、ベトナム出身のトゥエットさんたちが中心となってつくるグループ「Ngon Ngon Vietnam (ゴンゴンベトナム)」は、

2021年11月と2022年2月、外国人市民を対象にベトナム弁当の無料配布を行いました。これにあわせて協会もフードドライブによる食料品を提供。まだセンターに来たこともない技能実習生たちとつながる機会となりました。



### 外国人防災アドバイザーが防災ビデオを自主制作!

2020年度から始まった外国人防災アドバイザー養成事業では、5人の外国人市民が「人と防災未来センター」の見学や箕面市市民安全政策室による防災研修を受け、また自身の経験を活かして外国人市民に防災情報を提供する企画を検討しました。2021年9月に予定していた企画は感染拡大により対面開催を中止し、急遽、オリジナル防災動画の作成を実施。「外国人防災アドバイザーの紹介」「停電になったらどうする?非常用電源の紹介」「何を用意したらよい?防災グッズの紹介」「食べるものを用意しよう!非常食の紹介」の4つの動画を作成しました。Youtubeでどなたでもご覧いただけます。右記のQRコードより



### 発熱やワクチン接種に関する相談が急増

2021年度、センターには外国人市民から生活に関する相談が883件寄せられました。そのうち約25%が医療に関する相談で、さらにその半数が発熱などによる受診や検査、ワクチン接種の予約についてなど、新型コロナに関する相談でした。また、全体の約30%は他機関と連携して継続支援を行ったケースです。生活困窮や難民申請、労災、メンタルの不調など抱えている困難は様々ですが、言語や文化の違いから他の窓口や機関には相談しづらい人が、センターへ相談に来ています。また、電話での相談が全体の約半数を占めたことも特徴的でした。長期化するコロナ禍で孤立したり、生活が困窮したりする人が増えていきます。こうした人々とつながれるように、相談体制を強化していきたいと考えています。



コロナ禍での2年が経ち、オンラインでの取り組みなど新しい可能性が広がった反面、人と人が直接に会い、表情や空気を感じながらコミュニケーションする機会がとてまもなく少なくなりました。この間、失われてしまったものがあることも、ひしひしと感じています。2年前とは大きく変わった世界のなかで、多文化交流センターの役割はどうあるべきか。皆さんと一緒に考えながら、春からの事業に取り組んでいきたいと思



「こんにちは〜」から始まる何か新しい世界

## 学生・若者と地域がつながる居場所

# 「ひとこま」

2021年4月、大阪大学箕面キャンパスが船場地域に移転。センターから車で5分の距離に大学キャンパスがやってきた！留学生や教員、学生たちと物理的な距離が近くなるので楽しみ！阪大との協働事業としての、学生・若者と地域がつながる居場所「ひとこま」がスタートしました。

## サードプレイスとして

**西村**：いつから「ひとこま」の活動をしていますか。メンバーのお二人は、もともと知り合いだったのですか？

**ひびき**：2021年6月から活動しています。オーシャディさんとは、この活動を通して知り合いました。最初「学生・若者と地域がつながる居場所」に関わってほしいと、アンドレイアさん（協会職員）に声をかけられた時、正直何をするのかよく分かりませんでした。とにかく阪大箕面キャンパス3Fのこの場所で、僕たちが中心となって、何かするというので、動き出しました。

**西村**：その後、「何か」というのは見えてきましたか？対象はやはり学生ですか？

**ひびき**：いえ、大学生に限定する必要はないと考えてます。広く地域の人にも参加してもらいたいですね。子どもも楽しめるイベントをしたいとも話していて、いろんな人のサードプレイス※になればいいなと思っています。人がつながるきっかけのコンテンツはなんでもいいんですよ。

**西村**：箕面市には、様々な国や地域にルーツを持つ人が多く、小さな地球ともいえる場所。そこに阪大外国語学部の学生を始め、日本育ちでも海外に興味を持っている、オープンマインドな人が多いと思います。僕もそんな一人ですが、留学生や外国人が話している輪に、入りたくてもあと一歩が踏み出せないんですよ。

**オーシャディ**：スリランカ出身で、現在大阪大学大学院で日本語教育を学んでいます。生まれ育ったスリランカでは母語で生活できていて、文化にも親しむマジョリティ（多数派）でした。日本は全く別の世界。本や先生から学んだ「日本」を実際に体験・経験する毎日です。しかし残念ながら、日本に住んでいても、日本人と知り合うチャンスがあまりありませんでした。「ひとこま」は、ひびきさんや学生、地域に住んでいる人と出会う場になってますね。

**西村**：知らない人同士が気軽に「こんにちは〜」と、声をかけあうことから始まる、何か新しい世界のような場ということですね。

**ひびき**：どう言ったらいいのか、「安定感」のある場所です。



聞き手：西村健さん  
(外国語学部アラビア語専攻2年)

しゃべりたくてもあと一歩勇気が出ない



ひびきさんはいつもみんなをひっぱる役割でとても尊敬しています。

「ひとこま」コーディネーター  
ひびきさん

オーシャディさんは静かに聞いて、まとめてから意見を発するので、すごいなとリスペクトしています。

「ひとこま」コーディネーター  
オーシャディさん（日本語専攻 博士課程2年）

## 資本的でない場

**西村**：安定感？

**ひびき**：MAFGA（箕面市国際交流協会）みたいな安定した居場所は、箕面市にも他にもあると思いますが、情報が少ない。多くの人はカフェや居酒屋に行くのかもしれませんが。資本的ではない場にいつも誰かがいて安心できる「安定感」ですね。さらにもう一つ活動を通して伝わってきたのが、「自由すぎる」というところです。資本主義（損得）ではない、何か世の中とはちがうもの。

**西村**：「ちがうもの」というと、オーシャディさんも来日して食べ物を始め、いろいろ文化の「ちがい」を感じたんでしょうね。

**オーシャディ**：初めて日本食を食べた時、「不思議、ちがう」と思ったけど、回数を重ねていくと、今では1日1回は食べたいほど、なくてはならない存在になっています。不思議なものですよ。また、センターの子ども事業にも関わって、日本の中にも多様なルーツを持つ人がたくさんいて「ちがい」があることを知りました。私が知っていた日本とは「ちがう」一面です。1月に始まったばかりの「ひとこま」ですが、すでに「日本人って何？」という場面に出くわしました。

**ひびき**：そう！この前、日本人を対象にした研究関連のアンケートを取りに留学生がやって来たんです。最初は職員のアンドレイアさんに話しかけて。僕もアンケートに答えようとQRコードにスマホをかざそうとすると、「これは日本人向けのアンケートです」と。すぐさまアンドレイアが「日本人って何？」と問いかけて…留学生は戸惑っていましたが、見た目では判断できないよねって熱く語りながらもお互い発見があって面白かった。

**西村**：あと一歩がでない、僕みたいな学生が、アイデンティティについて考えたり、相互理解のきっかけとなる場になればいいですね。ぜひ、たくさんの人を巻き込んで行ってください。

**ひびき**：アンドレイアさんはすでに西村さんを巻き込もうとしていてと思いますよ（笑）（おわり）

※サードプレイス：自宅とも職場/学校とも隔離されたコミュニティであり、自分らしい時間を過ごすことができる第三の居場所のこと。

## JET-ALTって、どんな人たち？ 市立小中学校の外国語指導助手を知る！

箕面市では英語教育を強化するために2015年から全市立小中学校の全学年で毎日英語の授業を実施しており、JETプログラムを通し、たくさんの英語を母語とするALT（外国語指導助手）が学校現場で働いています。ALTの先生たちはどんな人たち？！新旧のALTの先生方にインタビューしました！



フレンチ・アイゼア・アントニオ  
2017年夏～2019年夏まで箕面市立第二中学校に勤務



トリン・サラ  
2021年10月に来日  
箕面市立彩都の丘学園に勤務

アメリカの西海岸ロサンゼルスのアジア系、ラテン系、ネイティブアメリカン、黒人など、多様な文化背景・言語背景を持つ人たちが住む地区で育ちました。親がこれからはスペイン語を話せるようになることが重要と考え、小学校はスペイン語で授業をする学校に通いました。英語とスペイン語のネイティブ話者です。

最初に日本語にふれたのは6歳で始めた空手で、「イチッ！ニッ！サンッ！」という掛け声を覚えました。そのカッコいい響きが、日本への興味を抱きかけとなりました。その後、ありきたりですが、アニメや漫画に出会い、どんどん日本に魅了されていきます。

はじめて日本語を学んだのは、高校1年生の時。その後、大学3年生時に、長年憧れてきた日本への短期留学の機会を得ました。今思うと運命的ですが、その時の学び舎が大阪大学外国語学部（箕面市粟生間谷）でした。プログラムの最後には熊本で2週間ホームステイをしながら、地元の高校で英語を教える経験します。

それまで親しんできたアニメや漫画の中で描かれている山や海などの風景が本当に（リアルに）存在しているのだと、ものすごい驚きがありました。（日本で生まれ育った方には信じられないかもしれませんが）今振り返ると、自分自身がアニメの中にいるような、そんな間違っただけの感覚を持っていたのかもしれない。その後、実際の人と人との出会いから、ここにいる一人ひとり人生があり、家族があり、生活があり、そして喜怒哀楽があるのだと、至極当たり前のことですが、それに気が付きました。

大学卒業後、小学校の音楽教員の経験などを経て、2017年の夏、再び箕面の地に。今度はJETプログラムのALT（外国語指導助手）として戻りました。箕面市立第二中学校で英語を教えて、同僚の先生たち、そして生徒たちとよい関係性を育むことができました。保護者からも信頼もあって、あの時の生徒たちは今高校2年生になり、いまだにお茶に行ったりしています。英語の授業だけでなく、社会の授業で、南アフリカのアパルトヘイト（人種隔離政策）と米国におけるセグリゲーション（人種差別）の特別授業を行うなど、様々な経験をさせてもらいました。

ライフワークとしては、日本に興味を持っている黒人の若者たちと、日本人たちとの相互理解の促進に取り組んでいます。私が今、日本で生活するきっかけとなったJETプログラムを通して、米国から毎年たくさんの若者が来日しています。ただ、黒人の比率は低く、同じ機会が与えられているのかと疑問があります。高校や大学時代に、日本に留学したり、交流したりする場があると、その後の人生に大きな影響があると思いませんか。

同時に、日本人たちに、もっと米国における黒人文化や歴史について知る機会を作りたいです。ワークショップの開催、映画や音楽などのエンタメにおける黒人の描かれ方の変遷などを、自分たちの言葉で伝えていく活動を行っていきたくです。僕が大きく成長するきっかけとなった箕面。これからも箕面のみならずと繋がっていきたくです。

アメリカのボストン出身で、両親はベトナム戦争時代にアメリカに移民として渡米したベトナム人です。母語は中国の方言「潮州」という言葉です。母語の潮州語、英語、ベトナム語、そして日本語も少し話します。

10代の頃は、ステレオタイプなアメリカ人になりたいと強く思い、アメリカ人として十分ではないのではと、アジア人というアイデンティティに悩んだこともありましたが、今はアジア系アメリカ人であることに誇りを持っています。大学で、アジア研究史を専攻したこと、また、3年生の時に半年間奨学金を受け、上智大学（東京）に留学も経験したことも、影響しているかもしれません。

勤務する彩都の丘学園は小中一貫校で、主に小学1年生から4年生までを教えています。赴任初日に私を見た子どもたちが、「え、日本人？あの人、日本語話しているよ。日本人じゃないの」と言っただけです。日本語が少し話せるし、見た目がアジア人なので、そう思ったのかな。日本の中では日本国籍＝日本語話者＝日本の文化背景を持つ人＝日本人と思う人が多いかもしれませんが、世界はもっと多様です。

彩都の丘学園には、6名のALTがいて、私たちは自分たちのことを「SAITO6」と呼んでいます。皆、英語ネイティブ話者ですが、メキシコやポーランドからの移民二世もいて、一人ひとりが背負っている文化背景・言語背景は全然違います。「〇〇人」と一言で言っても、いろいろな言葉や見た目や文化を背負っている人がいることを、私たちALTを通して直接感じてほしいですね。JETプログラムとは、外国語教育の充実ということだけではなく、地域の国際交流の推進を図る事業でもあります。

箕面で働き始めて数カ月ですが、日本の学校教育は教科書学習以外の例えば給食や掃除の時間を通して、共同作業の大切さや公共の場を大切に扱うことなど、学びの場として位置づけられていることに感銘を受けました。

ALTは外国語指導助手ですが、子どもたちからすれば「先生」ですよ。子どもたちは大人の言葉以外の振る舞いをよく見ていて、どんどん吸収していくので、言動には気を付けています。仕事以外の生活空間でも見られているかもしれないと少し窮屈ではありますが、日々成長している子どもたちと接する仕事はとても刺激的です。子どもたちが、人と人とを繋げる懸け橋のような存在に成長して欲しいと思いがら、毎日接しています。

**\*JETプログラム**  
JETプログラムとは、語学指導等を行う外国青年招致事業（The Japan Exchange and Teaching Programme）の略で、外国青年を招致して地方自治体等で任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業です。





日本語教育アドバイザーとして活動しているヘバさんに聞きました。



**プロフィール：ヘバ・ラマダンさん**  
シリア出身。2017年に来日。2018年から協会のボランティア活動に参加。趣味は水泳、新しいことに挑戦すること。大阪大学大学院言語文化研究科博士課程在学中。2020年9月から「ひがしにほんご」の日本語教育アドバイザーとして活動している。

**Q：ヘバさんは日本語を第2言語として学んできた「学習経験者」ですが、それが強みだと感じる時はどんなときですか？**

学習者の表情などもみながら、その理解度を把握することが大切だと思っていて、そのことはボランティアにも伝えていきます。学習者にも質問したりしながら、理解のペースにあわせることが大切だと思っています。

**Q：逆にそれが弱みだと感じる事があれば、教えてください。**

私は基礎的な文法は教えることができますが、日本文化、例えばお正月やひな祭りでなぜその食事をするのかなど、深い背景に関しては知らないことが多いので、そういった説明はボランティアに助けられています。自分は「読解」が弱いので、ネット上の記事やニュースを読んでいる上級者への解説も、日本語ネイティブのボランティアに任せられることもあります。

**Q：これから「ひがしにほんご」をどんな教室にしていきたいか、ヘバさんの抱負を教えてください。**

社会人の学習者がより多く参加できるような、日本語学習の、ひとつのコミュニティを作りたいです。留学生や働いている人など、みんなが参加できる場所になってほしいです。学生は大学で英語でのコミュニケーションがとれますが、その環境にいない人たちも一緒に勉強できる場所であればいいと思います。

「ひがしにほんご」は、仲良く楽しく日本語が勉強できる場所です。参加している一人ひとりが大事にされる場にしたいです。

**Q：日本語教育アドバイザーになって1年と少しが過ぎました。やってみてどうでしたか？**

自分自身、留学生として教育について勉強してきたので、学習者のことを理解できるとは思いましたが、アドバイザーの経験がなかったのが不安でした。試行錯誤しながら、少しずつ手順が分かってきました。最初は自分も学習者の指導をすると思っていましたが、そうではなく、みんなの様子を把握することが大切だとわかりました。

学習者のニーズは一人ひとり違いますが、基本的には教室に来て「日本語で話したい」と思っています。だから勉強よりも、日本語での会話を大切に考えています。

**Q：アドバイザーをやっていて、面白いと感じること、難しいと感じることは？**

学習者からいろいろな質問がきます。自分も、ノンネイティブとして日本語学習をしてきましたが、自分が気付かなかった点について質問されると勉強になり、そこが面白いと感じます。自分もちゃんと納得できる説明を考える機会となっています。

むずかしいところは、自分が理解できていないところを学習者に伝えるとき、日本語能力がゼロの人に対しての教材選びなどです。

＜「ひがしにほんご」ボランティア  
谷村宏美さんインタビュー＞

**Q：普段学習者に接するとき心がけていることは？**

学習者それぞれにあった学習方法を考えています。仕事場で英語のみで会話している人には日本語での会話を、日本に来たばかりの人には日常生活ですぐ使える日本語のフレーズを、日本語能力検定の勉強をしたい人には試験用の学習を、などです。また、初めて話をする時には、「はっきりと、最後まで、短く話す」「よく聞き、自分が話しすぎない」ことに気をつけています。

**Q：日本語学習支援の難しさとおもしろさは？**

やはりいろんな年代の、いろんなバックグラウンドを持つ人と話せるのは楽しいですね。

一方で、日本語がネイティブであることと、それを教えることができるというのは別。私は日本語が母語なので、正誤は分かりますが、その理由を説明できません。たとえば、「この人を知っています」はマル、「この人は知りません」はバツ。でも、その理由をきちんと説明できません。その時はヘバさんに聞いたり、研修のときに質問したりしています。

**Q：アドバイザーとボランティアはどんなふうに関わり合っていますか？**

ボランティア全員が、日本語支援の高いレベルを求められると、参加をためらってしまいますが、ヘバさんがいることで、私たちは不安なく活動できます。

ヘバさんは教室のあるときは、各グループをまわって様子を見ながら、困っている時にはサポートに入り、学習者



**プロフィール：谷村宏美さん**  
2020年9月から「ひがしにほんご」でボランティア。趣味は旅行、図書館・美術館巡り。

のニーズ、背景を理解し、学習状況を把握しています。教室の後のミーティングでは、学習の様子についてボランティアからの話を聞き、それに対して、ヘバさんがフィードバックしてくれるので、皆さんの励みにもなっていると思います。

**Q：「ひがしにほんご」がどのような教室になってほしいですか？**

私はここで学習者だけでなく、色々な世代のボランティア、協会のスタッフなど、普段の生活では出会えない、いろいろな方々と交流できて日常の楽しみがひとつ増えました。だから、学習者にとっても、いつでも、気軽に、安心して参加できる居心地の良いところになってほしいです。東生涯学習センターには東図書館があります。日本や海外の絵本の読み聞かせなど、子どもたちも含めた楽しい交流ができるかもしれません。いろいろな可能性を探って行きたいです。



箕面市国際交流協会は、箕面市内4か所で、日本語教室を主催しています。

ささゆり	火曜日	10時～12時@センター
せいなんにほんご	水曜日	19時～20時30分 @西南生涯学習センター
あかね	木曜日	10時～12時@センター
ひまわり	金曜日	10時～11時30分@センター
かやのにほんご	金曜日	19時～20時30分@らいとぴあ
ひがしにほんご	日曜日	10時～11時30分 @東生涯学習センター
T.E.S にほんご	土曜日	10時～12時@センター (運営：T.E.S. にほんご)

詳しくはHP <https://mafga.or.jp/>



## 箕面市立多文化交流センター (Minoh Multicultural Center)

指定管理者：公益財団法人箕面市国際交流協会  
MAFGA (Minoh Association for Global Awareness)  
〒562-0032  
大阪府箕面市小野原西5-2-36  
電話・FAX：072-734-6258  
URL：http://minoh-tabunka.jp/  
開館時間：9:00～22:00  
休館日：毎週月曜（ただし、祝日の月曜は開館）  
と年末年始

## 多文化交流センター施設のご利用

- 貸室  
初めて貸室を利用される場合、「利用者登録」が必要です。登録の手続きは、窓口のみで受付します。（9：00～17：00）  
\* 貸室：講座室A・B・C、会議室、ミーティングルーム兼学習室
- \* 時間：午前（9：00～12：00）  
午後（13：00～17：00）  
夜間（18：00～22：00）
- \* 料金：午前（950円）／午後・夜間（1,250円）
- 子ども活動室（プレイルーム）：事業で使用していない時間に一般開放（9：00～17：00）  
専有利用（有料）については、お問い合わせください。
- 印刷室（2階）  
\* 時間：9：00～21：00  
\* 料金：製版1枚50円・インク代10枚5円
- コピー機（1階事務所内）  
\* 時間：9：00～22：00  
\* 料金：1枚10円（白黒のみ）

## comm cafe URL：www.commcafe.org

世界の家庭料理を日替わりシェフが提供！  
地域で暮らす外国人市民の社会参加を促進するとともに、誰もが等身大で交流できるカフェです。  
\* 時間：9：30～17：00  
（ランチタイムは火曜・木曜～土曜 11：30～14：00）  
※売切れ次第終了）  
カフェは開館日の9:30～17:00まで営業  
カフェ直通 TEL：072-734-6255



## 定例事業（国際交流協会）

場所：多文化交流センター  
問合せ TEL：072-727-6912（国際交流協会）  
FAX：072-727-6920

- 日本語教室
  - －「ささゆり」（初級読み書き）  
毎週火曜 10:00～12:00 ※保育あり（定員10名）
  - －「せいなんにほんご」\*西南生涯学習センター  
毎週水曜 19:00～20:30
  - －「あかね」（初級会話）  
毎週木曜 10:00～12:00 ※保育あり（定員10名）
  - －「ひまわり」（交流型日本語教室）  
毎週金曜 10:00～11:30
  - －「さんさんクラブ」（おやこで日本語交流）  
第1・3水曜 10:00～11:30
  - －「萱野にほんご」\*場所：らいとぴあ21  
毎週金曜 19:00～20:30
  - －「ひがしにほんご」\*場所：東生涯学習センター  
毎週日曜 10:00～11:30
- 外国にルーツをもつ子どもサポート事業  
対象：小学生～高校生  
－学習支援「さぼると」：毎週土曜 10:00～11:30  
－居場所づくり「こどももっ」と：毎週土曜 13:00～16:00
- 多言語による生活相談窓口  
日時：火曜日～日曜日 9:00～17:00  
受付方法：来館、メール、電話  
対応言語：日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語  
個別相談日  
相談員が各言語の通訳者と一緒には解決方法を考えます。  
日時：毎週火曜日 11:00～14:30  
対応言語：英語、中国語、韓国・朝鮮語  
第2・4週は、ベトナム語とポルトガル語も対応  
その他の言語での相談にも対応します。  
お気軽にご連絡ください。

## 情報発信

URL：mafga.or.jp

箕面市国際交流協会HPからダウンロード可

- 箕面市国際交流協会  
月刊情報誌「めろん」 毎月1日発行
- 多言語生活情報誌「みのおポスト」：隔月発行  
やさしい日本語、英語、韓国・朝鮮語、中国語
- 箕面市立多文化交流センターニュース：年1回発行
- みのお多言語ポータル <https://portal.mafga.or.jp/>

## 箕面市立小野原図書館のご利用

開館時間：9：00～17：00  
休館日：毎週月曜（ただし、祝日の月曜は開館）  
と年末年始  
催し：木曜  
10：30～よちよち♪えほんタイム

TEL：072-749-5176

センターニュース No.17

- 編集・発行 箕面市立多文化交流センター 指定管理者：（公財）箕面市国際交流協会  
〒562-0032 大阪府箕面市小野原西5-2-36  
TEL/FAX：072-734-6258 <http://www.minoh-tabunka.jp/>
- 発行日 2022年3月31日

